



今月のテーマ
夏に多い病気

発行所：土川内科小児科
〒980-0003
TEL:0243-22-6688
受付時間：土曜休診

8月14日～17日まで完全休診：夏休みを兼ねたお盆休みをいただきます。この間、二本松を離れますのでお電話での対応もできません。大変申し訳ございませんが、よろしくお願い致します。

よつやく梅雨(今年は暑い日多かったですね)もあけて夏本番。毎年夏になると決まってはやる病気がいくつかあります。今回はそのような夏に多い病気を特集してみます(食中毒は先月特集しました)



2週間、便からは3～5週間もウイルスが排泄されますので、発疹が消えてもまだ人につす力はなくなりません。あまりにも長期間伝染力を有することと症状が軽いことから、この病

「手足口病」

その名の通り手のひら・足の裏・口の中に小さな水ぶくれができます。お尻もよく出る場所ですが、体にできることはありません。乳幼児に多く、潜伏期は3～6日です。熱は出ないか、出て微熱程度です。手足の水ぶくれは痛がりませんが、口内が痛くて食べられなくなることがあります。ほとんどの場合、自然に治りますが熱や口内の痛みがひどいときはお薬を処方します。手足の発疹は特に治療を必要としません。口内を痛がるときは、食事の内容に注意し、水分補給に努めてください。お風呂は熱が高くなく元気なら入ってかまいません。問題は保育所などを休ませなければいけないかどうかです。この病気がコクサツキA群ウイルスやエンテロウイルスが原因で、咳やくしゃみによる飛沫感染と便を介した接触感染により伝染しますが、患者さんの咽頭からは

口の中が痛いときの食事

食べ物：かまずに飲み込めるものが適しています。たとえば、プリン・ゼリー・アイスクリーム・さましたおじや・豆腐・グラタンなどです。熱いとしみみすので温度も大切です。水分：十分与えて下さい。牛乳・麦茶・スポーツドリンク・みそ汁・ポタージュなど飲めるものでしたら何でもOKです。オレンジジュースなど酸味の強いものはしみるのでさけて下さい。

「手足口病」その名の通り手のひら・足の裏・口の中に小さな水ぶくれができます。お尻もよく出る場所ですが、体にできることはありません。乳幼児に多く、潜伏期は3～6日です。熱は出ないか、出て微熱程度です。手足の水ぶくれは痛がりませんが、口内が痛くて食べられなくなることがあります。ほとんどの場合、自然に治りますが熱や口内の痛みがひどいときはお薬を処方します。手足の発疹は特に治療を必要としません。口内を痛がるときは、食事の内容に注意し、水分補給に努めてください。お風呂は熱が高くなく元気なら入ってかまいません。問題は保育所などを休ませなければいけないかどうかです。この病気がコクサツキA群ウイルスやエンテロウイルスが原因で、咳やくしゃみによる飛沫感染と便を介した接触感染により伝染しますが、患者さんの咽頭からは

「ヘルパンギーナ」コクサツキA群ウイルスが原因。咳やくしゃみで飛び散り、それを吸い込んで感染します。潜伏期は3～5日です。この病気も乳幼児の間で流行する夏風邪の一種で、38～40の高熱が2～3日続き、のどの奥に小さな水ぶくれができるのが特徴です。口内の潰瘍も1週間位でよくなりますが、痛くて食べられないことが多いので、軟らかいものや味の薄いものを少しずつ与えるようにし、脱水症を起こすのを防ぐために水分の補給を十分にしてください。水分すらとれないときには点滴が必要となる場合があります。

「汗疹(あせも)」お風呂はシャワーでしただらOKです。汗の出でくるところ(汗腺)がつまり、汗が外に出られずにたまってしまったものがあせもです。ひたい首の周り・胸・背中など汗のたまりやすいところに小さくて赤いぶつぶつができます。通常は赤いあせも(紅色汗疹)ですが、色の

あせもの予防
汗をかきっぱなしにしない：汗を吸いやすい肌着(木綿・ガーゼ)、汗をかいたらまめに着替える、裸でいるとかがえてあせもができやすい、お風呂で汗を流すなど。
涼しくする：クーラーを使う(冷やしすぎない様に)、扇風機を使う(遠くから微風で)、アイスノン枕など。
薬をぬる：湿疹化した場合は塗り薬をつかいます。化粧してしまったら抗生物質の内服が必要となります。

インターネットにホームページを開設しました

今年はじめから、ホームページを開設しようと準備をしてきました。まだ工事中のところもありますが、8月3日の開院記念日に公開致します。インターネットにはいろいろな情報があふれていますが、どこへ行けば自分のほしい情報があるのか見つけるのはそう簡単ではありません。そこで、インターネットで得られる医療情報のありかを提供する事をメインのテーマとしました。暮らしに役立つ医療情報(リンク集)、小児科の部屋、医学常識のウソ・ホント、仙台オープン病院救急診療マニュアル(Dr用)、おすすめWWWサイト(医療関係者用)、趣味の部屋などのページがあります。インターネットにアクセスできる方は是非一度のぞいてみてください。URLアドレスは <http://www.safins.or.jp/kankun> です。



「伝染性膿痂疹(とびひ)」この病気は、細菌が原因です。虫さされ・あせも・すり傷などジクジクしているところに、ぶどう球菌などの化膿菌が感染すると起こります。かゆみのある水疱ができ、破れるとかさぶたを作ります。かゆいのでかくと菌が飛び散って水疱があちこちにでき、その広がりが飛び火みたいなので「とびひ」という名前でも呼ばれます。治療は患部をよく消毒し、抗生剤入りの軟膏を使います。ひろくことと広がりますので患部はガーゼでおおうようにします。ひどい時は抗生剤の内服を併用します。治るまではプールはさけてください。お風呂はシャワーでしただらOKです。

「虫さされ」蚊・ブヨ・ノミ・ダニなどに刺されたり、かまれたことが原因でかゆみや痛み、発赤・はれなどの症状がでます。はれは翌日の方がひどくなることもあります。刺されたところを石けんと流水でよく洗い、抗生物質入りのステロイド軟膏を塗るのが一番です。大きい蜂に刺された時は、時にショック症状を起こす危険性もありますので、できるだけ早く医療機関を受診してください。

ついでに白いあせも(白色汗疹)もありません。1日2～3回お風呂に入れ、よく汗をながして皮膚を清潔にし、涼しい環境にしてあげれば数日で治ります。なかなか良くならない場合には、塗り薬を使うこともありますが、あせもは治療より予防です。

